

## 地域包括医療実習Ⅰ

科目責任者：千種雄一（教育支援センター 地域医療教育部門）

### I. 前 文

わが国では、2025年までに地域完結型医療、地域包括ケアシステムが実現される計画が立てられた。その要となるプライマリヘルスケア（primary health care）は、地域に根ざした包括的かつ継続的医療と定義される。疾患の治療だけでなく予防にも重点がおかれ、医療・保健・福祉・介護のチームワークが大切である。将来、地域医療を担っていく医学部生には、低学年の早い時期から地域におけるプライマリヘルスケアを体験し、医療・保健・福祉・介護の活動とそのネットワークの状況などを学ぶことが望まれる。第1学年では、主に診療所実習を通して地域医療におけるコミュニケーションの大切さを学ぶ。

なお、本実習は、地域枠入学者には必須である。また、1～4年まで継続的に実施し、ステップアップしていくことが好ましいが、自由選択者は1年間のみ履修も可能である。

### II. 受入可能人数

地域枠学生・地域医療に興味を持つ学生の場合、人数は制限しない。

### III. 担当教員

特任教授 千種雄一（教育支援センター 地域医療教育部門）  
 准教授 稲葉未知世（教育支援センター 地域医療教育部門）  
 准教授 橋本充代（教育支援センター 地域医療教育部門）  
 講師 上杉奈々（教育支援センター 地域医療教育部門）  
 講師 金子堅太郎（教育支援センター 地域医療教育部門）  
 非常勤講師 種市ひろみ（東都大学 幕張ヒューマンケア学部 看護学科 教授）  
 外部講師 栃木県保健福祉部職員  
 学外指導者 診療所等の医療機関の院長・医師・職員

### IV. 学習内容

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	5	18	水	5	自己紹介 全体オリエンテーション	地域医療教育部門教員
2		25	水	5	バイタルサインの測り方	地域医療教育部門教員 種市ひろみ
3	6	3	金	5	調整中	上杉奈々
4		8	水	6	地域医療に対する対話集会	栃木県保健福祉部職員 地域医療教育部門教員
5		15	水	6	レポートの書き方・Power Pointと発表の仕方	橋本充代
6		23	木	4	直前オリエンテーション	地域医療教育部門教員
7	7-8				診療所実習（見学型）	各診療所
8	9	7	水	5-6	実習報告会準備（3年と合同）	地域医療教育部門教員
9		14	水	5-7	実習報告会（3年と合同）	地域医療教育部門教員

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
10	9	28	水	5	2年との合同講義	調 整 中
11	11	12	土	半日	地域医療包括セミナー（1～4年合同）	地域医療教育部門教員
12	1	11	水	5	1年間の反省会	地域医療教育部門教員

日程表の空欄や未定は予定が決まり次第、LMSで受講生には連絡する。また、日程表に記してある予定以外にも6・7時限・土曜・日曜・祝日を利用して実習が入る場合があるので、その場合はLMSで連絡する。必ずLMSで連絡が受け取れるようにしておくこと。

大学外の診療所が実習場所となるため、誰とでも礼儀正しくコミュニケーションを取れることを目指し、日頃より『周囲から信頼される医療者』にふさわしい人格と生活習慣および倫理観を身につけるように努める。実習中は礼儀正しく挨拶・自己紹介をし、不注意な言動や行動は慎むことが肝要である。また実習では、患者のプライバシーに関わる情報に触れることになるが、たとえ匿名であってもレポート・報告書・報告会以外では興味本位に仲間内で話したりすることは厳に慎むようにする。

また、必須のカリキュラム以外に日頃から積極的に病院実習やボランティア活動を行う者は本実習扱いとなるので、レポート等で報告することにより成績に反映される。

## V. 学修の到達目標

- 1) 栃木県の地域医療について説明できる。
- 2) 地域医療マインドを学び、説明できる。
- 3) コミュニケーションのとり方、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、バイタルサインを測定することができる。
- 4) 地域の診療所にてプライマリ・ケアを体験する。
- 5) 地域における診療所の役割を学び、説明できる。

## VI. 成績評価の方法・基準

出席状況と実習態度の評価（各診療所からの評価を含む）及びレポートの評価を参考とする。カリキュラム以外に地域医療に積極的に関心を持ち、自らすすんで実習をした場合、自己報告することにより、評価に加点される。

## VII. 使用する教材・資料など

地域包括医療実習 I テキスト

その他、必要に応じ、その都度紹介する。

参考図書：「格差時代の医療と社会的処方 病院の入り口に立てない人々を支えるSDH（健康の社会的決定要因）の視点」武田裕子 日本看護協会出版  
「神様のカルテ」「神様のカルテ2」夏川草介 小学館  
「がんばらない」「あきらめない」鎌田實 集英社  
「寄りそ医 支えあう住民と医師の物語」中村伸一 KADOKAWA メディアファクトリー  
「地域医療はおもしろい!!-地域を癒す48の取材記-」北村聖 ライフメディコム  
「在宅看護論 地域医療を支えるケア」メディカ出版社

## VIII. 質問への対応方法

千種雄一（PHS：7086, commed@dokkyomed.ac.jp）が窓口になり対応する。教育支援センター 地域医療教育部門（基礎棟1階123室）への来室は、平日9:00～17:00に行い、質問内容と連絡先をノートに記入する。

IX. 求められる事前学習，事後学習\*（ ）内は所要時間の目安

事前学習：実習の各毎にテキストの該当部分を読んでくること（30分）。

事後学習：実習内容を振り返り，不明な点などを調べたりしておくこと（30分）。

X. コアカリ記号・番号

A-7-1) 地域医療への貢献

G-4-3) 地域医療実習

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

レポートを添削の上，返却する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	○
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎